

「京都御苑ずきの御近所さん」

第1回：冷泉為人，貴実子ご夫妻



冷泉為人様の著書を拝見させて頂くと、冷泉家は以下のように紹介されています。

『平安・鎌倉の歌聖と仰がれた藤原俊成，定家父子を祖先に持つ「和歌の家」。冷泉の家名を名乗るのは鎌倉時代の^{ためすけ}為相からで，その為相から現代の為人まで，25代約750年間，「和歌の家」として家職を続けている。そしてその前にも藤原道長の11番目の子で，6番目の息子である長家からはじまる「和歌の家」の^{みこひだりけ}御子左家，すなわち長家，忠家，俊忠，俊成，定家，為家とつづく，ほぼ280年の長い歴史がある。したがって，長家から数えると，冷泉家は千年ほどになる。』

為 人：「家名」というのはわかりますか。平安・鎌倉時代は藤原氏が多い訳で，家の屋号みたいなものが出てきます。それが家名になります。藤原氏ばかりやから，冷泉通に住まいがあったので冷泉という家の名前が付くし，一條さんは一條通に住まい，九條さんは九條通に住んでいるのでそういう家の名前が付いた。田舎などで同じ苗字やったら下の名前で言うか，家の屋号で「どここの誰々さん」というようにゆうてたと思う。この家名というのはそういう意味なんだという事で理解してください。

公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫を設立（1981年4月1日）されてから，35年の節目を迎えられますが，御苦労，これからの展望をお聞かせください。

為 人：公益財団法人ということ言えば，先代が設立する時に非常に悩んで大変だったと思うんですけども，この財団法人になっていたからこそ，平成7年からの解体修理が上手にいったと思います。それがもしもなっていなかったら，この解体修理の時に10年間で10億円のお金を使ったんです。その時に財団で5億円のお金を集めた訳です。残りの5億円は国からの補助金で頂いている訳ですから，みなさん方が納められた税金から補助金を頂戴しているということで，一人の家，冷泉の家だけでは到底無理だと思いますね。でも，今の政府の人たちは，自分の目の

前の大事なことだけしか考えておられませんので、文化財の保存、修理費ということで言いますと、お隣の韓国よりも予算額は少ないです。また、フランスの文化財関連予算は、国の予算の1% くらいかけているはずなんです。ところが日本は 0.0 何% やと。こないだもね、私、立命館大学の文化財の防災の研究（歴史都市防災研究所）に携わっているんですが、そこで、小西美術工藝社のイギリス人社長デービッド・アトキンソンさんが、妙心寺の山雪の襖絵をアメリカから買い戻したことが話題になっていました。T 先生は「外国人に言われて、恥ずかしいこっちゃ。そんなことみなさん方、どない思っておられますか！」とゆうてはりました。本当に、それが現状だと思えますね。でもこないして、環境省の方が我々を訪ねて頂くということは、だいぶ空気が変わってきたなと思えます（笑）。歴史と文化は大事な話やと思うんですけどね。それが外国へ行った時には必ず問われる訳で。日本人とはどんな民族かと問われた時に答えられなかったら相手にしてもらえない。世の中の風潮が実学ばかりゆうて、哲学がないのは、どうもやっぱりいかんと思えますね。

展望ということで言えば、冷泉家の財産をどないして維持していくかということで、公益財団法人の維持会員を増やすことがやっぱり一つの大きな課題です。会員を増やすことしかないと思えますね。結局、今のところは文化財を所蔵される方の熱意みたいなもので日本の文化財は守られていると思うんですね。国立の博物館とか公の博物館とか、美術館などもほとんど国や地方公共団体の予算でまわっているからこれもしんどいと思えますね。そして、そのところで見受けられるのは外から見ていて、いわゆる事務方と学芸とが上手にいつているのかなと（笑）。本当にこれは何でもないことなんやけども、ぎくしゃくしているという風に思わざるを得ない。これはまあ、日本人の気の小さいところなんかもしれへんけれども、やっぱりそれではいかんと思えますね。抽象的な言い方ですけども、日本の歴史と文化を守るために頑張っているんやという義と言うんでしょうか、大義と言ったら大げさになりますけれども、そういう意識がどうか我々戦後の人間はなくなってもたんちゃいますか。社会に貢献するということがなくなってもうたと思えますね。だからそういうことで言えば、母親が自分のお腹を痛めた子どもを放ったらかしにして虐待しているというのは僕らはわかりませんわ。そして、夫婦揃ってパチンコしていて、暑い車の中に子どもを放っといて死なしてしまうという。考えられへんことが起こっているということで。そんなところから日本の文化財を守ってくれと言うても、届かないというのが当たり前だと思えますね。それをこちらにどうして向けさせるかいうたら大変な問題だと思えますね。日本の文化を大切にしないと、グローバルになればなる程、やっぱり世界でものを言った時に聞いてもらえないと思うんですけど。それは時間がかかるかもわからないけど、大事なことはないかと思っているんですけどね。最終的に、やはり教育だと思えますね。だから小・中学校の教育をちゃんとするというで、僕はこれは前からの持論なんですけども、小・中学校の先生は普通の人よりも高給で雇えと。そして余分なことを課さないようにしないといけないと思えます。結局、各時代の折々に答えがあるということで、その折々に考えざるを得ないということでしょうね。だから今やったらまさに一つの案としてサポーターをどないして増やすかということでしょうね。で、そのところで何と言うんでしょうか、僕が経験したことで言えば、解体修理の時に展覧会させて頂いたんですけど、その展覧会させて頂いた時にもいろんなことを勉強した訳です。国立の博物館であつたら、財団とは言いながらサポーターを募集す

る要項というような私的なことを国立の施設に置いてもらうたら困るところもある訳で。もうちょっと大きく物を考えてくれへんかと。日本の文化を守るためにお願いしているんやから、そういう観点を認めてもらうて維持会員を増やすとか、寄付をお願いするということで認めてもらえないかということなどでだいぶ議論いたしました。でもそこで認めてくれるところと認めてくれないところがあったりする訳です。その辺り、やっぱりまだまだ日本はダメですね。そういうふうなところで置いてもらったら、見ず知らずの人が冷泉の家に寄付をしてくださる訳です。だから世の中にはそういうことがわかる人もいらっしやる訳です。そういう人のところにどないしてボールを投げたらええのかということが非常に難しい訳です。無闇やたらにそれはできない訳ですから、そういう公のシステムを使わせて頂くと言うんでしょうか、マスメディアを使わせて頂く方法しかないということです。だから、細く長く、そういうことを考えて行かざるを得ないという、まさにこれは抽象的な言い方ですけれども、そういうことを常に考えておかないかんということだと思えますね。ま、それがまさに展望ということだと思えますね。

愛犬の散歩に御苑を利用されていると伺いました。何というお名前ですか？ 著書の中には、五郎、六輔、十郎が登場していましたが…

貴実子：きゅうべえ（笑）。九と、兵隊の兵と衛まもるゆう字。以前は、太郎も、大二郎もいた。

為 人：九兵衛は紀州犬。

貴実子：六輔は柴。五郎は雑種。十郎はポインター。十郎は御所で拾うた。十郎を連れて歩いていたら、「サム！」とか言って寄ってきはる人がいはってね。「ええ?!」言うて。そしたら長いこと御所で野良やっていた犬だったんです。サムという名前を付けて。御所のね、スターやっみたいですよ。でもみんな心を痛めてた。それで私が拾ってすごい感謝してもらえたんです。

為 人：でも御所では、田舎とは違う、犬の名前まで、まさに京都らしい名前がたくさんありますなあ。びっくりした訳で。

貴実子：いろんなのあったな。

為 人：カントとかね（笑）。メス犬でカントちゅうのがありましたですな。

貴実子：いろんなのがおるね、御所は。今はあんまり変わったん聞いたことないかな。リュウマちゃんとか。そんなのが多いな。今、レオちゃん。

為 人：やっぱり京都人らしい名前がありますね。歌舞伎役者に見立てた名前付けてはる人とか。

貴実子：うちの子最近、他の犬が近寄ったらガーガー怒るからあんまり近寄らへんからわからへんな（笑）。

為 人：あのねえ、時々気に入らんかったらね、噛みおるんですわ。せやから困るねん。難儀ですわ。

貴実子：こないだなんか、謝りに行ってきたもん、家に。あの子何ちゅう犬やったかいな（笑）。

為 人：耳噛んでしもうて。で、傷ついたゆうて、謝りに行って。

貴実子：でもそういう御所って犬連れの、何ていうのかな、犬友が多いですよ。犬連れて、すごく仲良くなって。いろんな人いますよ。

為 人：で、なんか知らない犬、「誰々ちゃんのお父さん」ゆうて。僕なんかすぐに「冷泉さん」ちゅうのわかってしまってもう困っているんですけど、何もできんですわ（笑）。

京都御苑へのリクエストなどをどうぞ。

貴実子：京都でどこが好きですかという話で、「京都御苑」ってよう答えて。御苑なんて言うとなんか別のところみたいで。京都御所って、しょっちゅう言いまくっているんですけどね。前も言ったかな、撮影を制限されているっていうの、あれ何とかしてもらわなあかんわ。雑誌なんかの撮影は御所の木だけでもあかんで言わはるでしょ。インタビューに答えて、御所の木が好きと言うと、ぜひね、その木の下で撮影させてくださいとかね、どこの木か言って下さったら映しますとかね、言わはるんですけど。たちどころにみんな断られてきて、あきませんでしたゆう話が多いですね。広告するのがいいかどうかわかりませんが、こんなにみんなに愛されているのに、御所の写真撮ったらアカンとは。

為 人：でも本当にそういうこと言えば、写真で皆様方に紹介したらいいですよ。近衛さんとこの桜は、インターネットかなんかで紹介されている訳でしょ？そのまま上手に使うていきはったら、上手いこと宣伝もできるんちゃうかなと思うんです。

貴実子：でもね、御所の綺麗なのはイチョウやね。イチョウ綺麗やなー！最高やね。あっちこっちにイチョウあるでしょ。で、イチョウは真っ黄っ黄の時も綺麗だけど、落ちた時も綺麗ですよ。本当に絨毯みたいになって。モミジも落ちて、色とりどりの綺麗な絨毯になったみたい。本当にそんな感じでね。最高ですよ。そやから聞きたいねん、こっちの桂宮邸の前でも、なんであんなようけイチョウ植えんの？って。思いませんか？変なとこにあのイチョウ植わっていませんか？

為 人：あそこ固まってね。

貴実子：なんであんなごっつなる木を。ごっつなるまでに、何とかしよう思っはんのやろうか。ようけ木が生えている真ん中に、イチョウをわざわざ移植してはるの、どうかと思うであれは。イチョウなんておっきおっきなるのに。あんな間隔で植えたら、そんなもんえらい目に合うわな、将来な。でも最近、松枯れも激しいね。

為 人：本当に激しいね。今植えてはる松は違う松なんかな？あれ。どこかの強い松なんかな。松くい虫にやられるん違うか。

御苑では普通のマツを植えています。環境保全のため薬剤散布もしていません。

貴実子：ようけ枯れていますね。松くい虫がうちに来たらえらいことやと思っているんですよ。

為 人：なんか聞いたことあるよ。御所では自然のままにするんやということ。キノコをずっと探している人もいはるし、鳥をずっと見ている人もいはるし。

貴実子：キノコすごいですね。7月の初め頃かしら。キノコって秋っていいですが違いますね。7月の初めの梅雨の合間にもものすごくありますよね。

2016年3月8日 インタビュー
聞き手：田村省二、山本昌世、石田真理子

○冷泉為人さま



1944 年、兵庫県生まれ。関西学院大学大学院文学研究科博士課程単位取得。冷泉家二十五代当主、冷泉家時雨亭文庫理事長。また、立命館大学特別招聘教授も務める。専門は日本美術史（近世絵画史）。著書に『冷泉家・蔵番ものがたり「和歌の家」千年をひもとく』（NHK 出版）、編著に『京都冷泉家の八百年—和歌の心を伝える』（NHK 出版）、共著に、『五節供の楽しみ—七草・雛祭・端午・七夕・重陽』『瑞穂の国・日本—四季耕作図の世界』（淡交社）、監修に『冷泉家 時の絵巻』『冷泉家 歌の家の人々』（書肆フローラ）などがある。

○冷泉貴実子さま



1947 年、藤原俊成・定家を祖とする「和歌の家」冷泉家二十四代為任の長女として生まれる。二十五代当主・為人夫人。公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事，事務局長。著書に『冷泉家 八〇〇年の「守る力」』（集英社）、『京の八百歳 冷泉家歌ごよみ』（京都新聞出版センター）、『花もみぢ 冷泉家と京都』（書肆フローラ）などがある。

公益財団法人冷泉家時雨亭文庫のホームページ URL <http://reizeike.jp/>